

須加小保護者意見交換会 会議録

- 1 開催日時 令和元年8月18日（日）午後2時～3時30分
- 2 開催場所 須加公民館ホール
- 3 出席者 保護者16人、須加小校長
- 4 教育委員会 荻原学校教育部長、諸貫教育総務課長、白井主幹、須永主幹
久積、嶋田、柏瀬
- 5 会議内容

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
教育総務課長	2 あいさつ
司会	3 見沼中学校区における学校再編成計画及び今後のスケジュールに関する説明
保護者	4 意見等 義務教育学校では、教員が小学校と中学校の教員免許をもっていないといけないとあるが、そういった先生は多いのか。また、中学校の教員免許しかない者は、小学校の教員免許をどのように取得するのか。
学校教育部長	小学校の特に若い教員は、大学で小学校と中学校の両方の教員免許を取れる教育課程で学んでいるので、かなり多くの方が小学校と中学校の教員免許を持っている。中学校の教員は、中学校と高校の教員免許を持っている方が多く、小学校の教員免許を持っている方は少ない。そういう場合は、通信制で必要な単位を取ると小学校の教員免許を取得することができる。小学校の教員免許を持っていなくても、理科や音楽といった専門的な教科の免許を持っている中学教師が小学校で教えることは、今の制度では兼務として可能になっている。
保護者	学校の再編成の話は、大人はよく分かっている。しかし、子どもは受け入れられる部分と受け入れられない部分がある。学校の先生は、子供たちにとって大きな問題だ。例えば、須加小や見沼中にいる先生が再編成後の学校でも配置されるのであれば、安心すると思う。再編成後は、現在の須加小の状況を知らない先生も配置されると思うので、子供たちに対してフォローをしてほしい。自分の子どもは複式学級に在籍していた。デメリットも感じていたが、先生がフォローしてくれたおかげで問題なく学校生活を送ることができた。今も6人の学年があるが、大人数

<p>学校教育部次長</p>	<p>で授業など受けることになると、子供たちは大きなストレスを抱えることになるだろう。男女比も全然違うので、子供たちのフォローをお願いする。</p> <p>令和4年度に新校が開校される際には、須加小、北河原小、荒木小に勤めている教員を配置していく。子供たちも知っている先生がいることで安心すると思うので、そういったことを配慮しながら人事異動を計画的に行っていく。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>先生の配置に加え、子供たち同士の関係にも配慮していく必要がある。そのため、今年度から見沼中学校区の小学校同士あるいは中学校も含めての交流事業を計画し、1学期中に全学年1回ずつ行うことができた。2学期以降も続けていくとともに、来年度は一緒に授業を受けてもらうことも考えている。</p>
<p>保護者</p>	<p>子供たちは、何のために交流事業を行っているのか把握しているのか。子供たちを見ると、分かってないように思える。学校の再編成が決定していることを、親が言っているのか迷っているし、学校が言っているのか分からない。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>荒木小の保護者意見交換会でも同じような意見が出た。教育委員会としても、再編成を進めるとともに義務教育学校を設置することを、保護者との意見交換会や地域への説明を経て決定していきたいと考えている。その後、子供たちに対して正式に見沼中学校区の小中学校が一緒になることを説明していくことになる。交流事業について、子供たちに戸惑いがあることを皆さんの意見を聞いて認識することができた。</p>
<p>保護者</p>	<p>再編成について理解している児童もいれば、理解していない児童もいる。計画が決定していない中、保護者がどのように子供たちをフォローしていくべきか戸惑っている。個人的には計画を実行するのであれば、進めてほしいと思う。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>現在のところは、計画は「案」ということになっている。7月30日に見沼中学校区の地域協議会を開催したが、「保護者の意見を聞いたのか」という声があった。そこで、今回の保護者との意見交換会を開催したところである。そして、8月27日に2回目の見沼中学校区地域協議会を開催し、参加者の了承が得られれば、令和4年度に義務教育学校を開校することに向けて準備を進めることができ、計画を実行することが</p>

<p>保護者</p>	<p>決定になる。</p> <p>小中一貫教育のメリットとして、「中一ギャップ」を解消できることが上げられているが、逆に中一でリセットした方が、人間関係がよくなる場合もあると思う。義務教育学校になると9年間同じメンバーで過ごすことになるので、デメリットにつながるのではないかと思う。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>理想は、クラス替えができる規模で再編成をしたいと考えていた。同じクラスの子も同士で問題が生じた場合に、クラス替えは有効な手段である。今回の再編成は、全部の学年がクラス替えできないが、さらに10年後には北部地域の他の学校も生徒児童数が減るので、北部全体として再編成が必要になってくる。</p> <p>少し大きな規模の中学校に進学することが、リセットする良い機会でもあるが、小中一貫教育は中学校に進学する際にリセットされず、子供たちの友人関係などの情報を先生同士で引き継いだり、先生方の目がずっと届いていたりすることで、子供たちも安心すると思う。</p>
<p>保護者</p>	<p>中学校は校則があるが、小学校は今のところ無い状況である。義務教育学校になった場合は、どのようになるのか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>中学校は、校則として明文化されている。その中で、本当に必要なものなのかを保護者と一緒に見直していく必要があるので、保護者の意見は大切である。具体的な事項については、開校準備委員会の専門部会で検討していくことになる。小学校でも生活上のきまりがある。3校でそれぞれ違うと思うので、すり合わせていく必要がある。</p>
<p>保護者</p>	<p>小学校と中学校の両方の教員免許を持っている先生を配置することだが、免許のことだけでなく、見沼中学校区の学校に精通し、小学校、中学校それぞれで子供たちに手厚くフォローできる先生を配置することも必要だと思う。特に気になるのが、義務教育学校になると校長が一人になるということだ。須加小、見沼中は今まで校長に恵まれていた。小規模校なので、校長が児童生徒一人一人に目が十分届いている。義務教育学校になると、一人の校長が子供たちに対して十分に目が届かなくなるのではないかと心配している。</p>
<p>学校教育部次長</p>	<p>義務教育学校の校長は1人だが、小学校と中学校の両方を経験していて、今の子供たちのことを理解している方を配置することが望ましい。教頭は2人配置することができるので、小学校と中学校それぞれ専属で</p>

保護者	<p>配置し、さらには養護教諭など子供たちが普段接する機会が多い教諭は、できるだけ2人置き、子供たちが不安にならない教員配置をしていきたい。</p> <p>小学生が学校で使用するものは小さいと思った。見沼中学校では、黒板・蛇口・特別教室で使用する物などは、中学生が使用するサイズとなっているが、ハード面での配慮は考えているか。</p> <p>また、校庭も小学生と中学生が共に使用すると思うので、その際に危険もあるのではないか。</p>
教育総務課長	<p>基本的に、見沼中学校の施設で利用できるものは使用していくという方針である。小学5年生・6年生は、現在の校舎に入ってもらえることになる。小学1年生から4年生までは教室が不足するので、増設することになる。よって、増設する校舎内の施設は小学生の体格に合わせて作っていく。共有する施設については、小学生の体格に合わないものもあるので、小学1年生でも使用できるように整備をしていく。例えば、体育館のバスケットゴールの高さも違うし、校庭に遊具もないので、新たに設置したいと考えている。</p> <p>校庭も小学生と中学生で共有するので、授業で小学生と中学生が重複しないような時間割を作っていかなければいけない。小学生と中学生が一緒になることで、危険が伴わない配慮をしていく。現在は、中学生が部活動を行っている時間帯は、小学生は帰宅しているが、詳細は教育課程を作っていく部会で検討していくことになる。</p>
保護者	<p>特別教室を9学年で使用するようになるので、教室の数を増やす必要があるのではないか。</p>
教育総務課長	<p>小学校と中学校で時間割をシミュレーションしてみた。理科室や家庭科室は、あまり他の学年と重なっていないことが分かった。時間割を工夫すれば、特別教室を増やす必要はないと思っている。</p>
保護者	<p>体操着について既存のものを使用してよいとのことだが、それにより「お前須加小だろ」とか「荒木小だろ」と言い合いになり、逆に仲間が作れないのではないかと不安がある。</p>
教育総務課長	<p>再編成したからといって、新たなものをすぐに買い換える必要はないという主旨だ。子どもは成長し、買い換えなければいけないときがある。そういったタイミングで再編成のときの新しいデザインのものを購入</p>

保護者	<p>してもらえばいいと思う。</p> <p>須加小も前のデザインのジャージを着ている子どもがいるが、子どもは恥ずかしいと思っているようだ。保護者はもったいないので、使える物を着させたいという気持ちがあるが。</p>
教育総務課長	<p>再編成後に着用する体操着のデザインを前もって決定し、周知することは可能である。</p>
保護者	<p>P T Aについて、須加小の保護者は少ないので何かしら役員をやっているが、負担になっている。義務教育学校になると、P T Aによる親の負担は変わるか。</p>
教育総務課長	<p>義務教育学校になった場合、P T Aの運営についても考えていかなければいけない。再編成後のP T Aのことを話し合うときには、須加小の保護者にも加わってもらわなければならない。再編成後のP T A組織として、「必ず須加小から何名入らなければならない」というのは無い方がいいのではないかと思うが、さまざまな部会に須加地区の保護者が誰もいないというのは逆に悪い部分でもある。P T Aで何をやっているのかを伝えていくには、各地区でバランスよく保護者がいた方がよいのではないかと思う。</p>
須永主幹	<p>色々な学校行事をやる中で、地区ごとに動いていただきたいこともある。本部役員でやるのか、それとも地区役員でやるのかを考えていかなければいけない。荒木小は、須加小と同じように今年度から本部役員になっていただく保護者を抽選で選んでいる。北河原小は家庭数が少ないので、P T Aの本部役員を断れる状態ではない。現状では、小学校でも中学校でもP T A役員をやる方もいる。義務教育学校になるとやり方次第で、小学校と中学校でP T A行事を合わせるなどして負担が減るのではないかと思う。</p>
保護者	<p>須加小のP T Aは、公民館と一緒に行事を行っている。荒木小など他の学校のP T Aでも、それぞれよさがあると思う。それぞれの地区で残したい行事もあると思う。</p>
須永主幹	<p>見沼中で3年間P T Aの担当をしてきた。本部役員を決めるときに、荒木・須加・北河原地区から通う生徒数がそれぞれ違うので、どの割合で保護者にお願いするのかを議論してきたが結論は出なかった。小学校</p>

教育総務課長	<p>と中学校が同じPTA組織になるので、負担は減るのではないかと思います。ただ、地域公民館との連携もあるので、それぞれの地区の方がPTA役員にいた方がいいこともあると思う。</p> <p>小学校と中学校で、PTA組織を一体にしてよいかということも考えていかなければならない。</p>
保護者	<p>小学校でPTAの役員をやったから中学校で免除されるのか疑問だ。小学校も中学校もやるのか、それとも9年間のうちに1回やればいいのかという疑問がある。</p>
教育総務課長	<p>そういったことは何も決まっていない。</p> <p>PTA行事で前期課程（小学校）と後期課程（中学校）で一緒にやっていた方がいいのか、それとも分けなければいけないか考えていかなければならない。</p>
保護者	<p>先生は、施設一体型の義務教育学校をどのように思っているのだろうか。小学生と中学生の対応の仕方はそれぞれ違うので、分離型の方がいいと思う人もいるのではないかな。</p>
教育総務課長	<p>組織としては、一体型の方が活動しやすいのではないだろうか。イベントなど合同に実施したり、小学校と中学校で分けて実施したりすることがあるので。</p>
保護者	<p>縦割りで活動するときに、反抗期の中学生が小学校低学年の子どもに優しくできるか疑問に思っている。</p>
教育総務課長	<p>反抗は、親に対してである。小中一貫教育の研修会の講師によると、中学2年生・3年生は小学校低学年の面倒をよくみると話をしていた。小中一貫教育には、そういった効果が表れるといわれている。</p>
保護者	<p>小学生と中学生で一緒に授業を受けることはあるのか。</p>
学校教育部次長	<p>そういった事例は聞かない。縦割り活動を1カ月に1回程度行っているが、授業については内容が違うので行っていない。</p>
教育総務課長	<p>異学年で交流する活動は、設ける必要がある。例えば、登下校なので小学生と中学生が一緒になることはあるが、授業はそれぞれの学年で行</p>

保護者	う。 中学生は7年生・8年生・9年生と呼ぶようになるのか。
学校教育部次長	昨年、小山市の義務教育学校を視察した。そこでは、1年生から9年生という呼び方をしていた。6年生が修了した時点で卒業式はないが、修了式の拡大版をやっているようである。皆さんと一緒に学校を作っていくという考えなので、学校の行事についても意見を出してほしい。
保護者	小学校の卒業式がないのは残念だ。
教育総務課長	卒業式という名前ではないが、小学校の課程を修了したことを実感できる行事は必要である。
保護者	保護者も子どもを6年間通わせたという区切りを感じたい。
教育総務課長	行事を通して小学校の前期課程を修了し、「これからは学校のお兄さん、お姉さんになるんだ」と意識付けしていきたい。
保護者	新たに校舎を増設するとのことだが、見沼中学校の敷地内なのか。それとも、周りの田んぼに建設するのか。
教育総務課長	校舎の増設は、見沼中学校の敷地内で行う。今ある校舎の南側を考えている。
保護者	工事を行うことで、受験を控えている生徒に影響は出ないか。
教育総務課長	日常生活に影響が出るので、配慮していく。
保護者	見沼中学校で行事があると、学校の周りで路上駐車をするケースが多い。近隣住民に迷惑を掛けていると思う。駐車スペースも考えてほしい。
教育総務課長	スクールバスを運行させるが、転回場所などを考えていかなければならない。周りの土地を借りて、敷地を広げていくことや、北側の駐輪場が必要なのかなど、教員と一緒に考えていく。
保護者	再編成後の須加小の校舎はどうなるのか。

教育総務課長	須加小の校舎は、まだ耐用年数があるので残していく。避難所にもなっているのですぐに取り壊すということはいけません。どのように活用していきたいかを、地域の皆さんに聞いていく。例えば、公民館の耐用年数と比べて、校舎の方が長いのであれば、公民館機能を校舎に持ってきて、広々と使うこともできるだろう。逆に今の公民館の方が校舎より耐用年数が長ければ、そのまま残して、他の活用方法を検討する。
保護者	学童保育室は荒木小にあるが、須加小にない。学童保育室は新しくできる学校に作るのか。
教育総務課長	学童保育室は、利用者がある程度そろわないと運営できない。見沼中の施設を使ってやるのか、それとも荒木小でやるのかなどを検討する。
保護者	運動会や体育祭は、小学生と中学生で一緒に行うのか。
教育総務課長	具体的に決まっていない。体力面や小学校高学年のリーダーシップの育成を考えると、小学校と中学校で別に実施することが望ましいのではないかと思う。
学校教育部次長	他の義務教育学校を見てみると、小学校と中学校で一緒にやっているケースもある。学年の人数が多くなると、5年生・6年生が自分の種目に出場し、自分の係をやらなくてはいけないので、休憩する時間がない。小学生と中学生で一緒にやったとしてもプログラムを工夫すれば、午後2時くらいまでに終わるのではないかと思う。
保護者	子ども会は、学校ごとに運営方法が違うようだ。学校が再編成すると、運営の仕方が変わってくるのか。
教育総務課長	子ども会育成会は、地域の中の任意団体である。学校と連携して活動しているのであれば、今後検討していく必要があるが、地域と連携しているのであれば、それぞれの地域で運営していった方がよいと考える。
保護者	単純に、1クラス40名を超えると2クラスになるのか。
教育総務課長	国の基準で1クラスは40人までとなっている。行田は35人が基準になっている。
保護者	特別支援学級については、教室数など考慮しているか。

教育総務課長	特別支援学級は必ず設置する。現在、見沼中は1クラスある。各小学校でも特別支援学級はあるので、その数を見込んで教室を用意する。
保護者	子どもが複式学級で授業を受けており、国語は担任の先生、算数は別の先生に教えてもらっている。この状況は子供たちにとって刺激があり、親としてもよいと思っている。義務教育学校になることで、全ての学年が教科担任制になるのか。
教育総務課長	<p>小学校は学級担任制であり、中学校は教科担任制になる。乗り入れ授業というのは、小学校高学年で英語や理科など科目によって、専門的な知識を持った中学教員が教えに来るといったものだ。中学校の授業へのつながりを意識して教えてもらえることにメリットがある。こういったことが、これまでの授業形態と違う部分である。</p> <p>令和4年度に見沼中学校区の小中学校を再編成して、義務教育学校を開校することについて、率直な意見を聞きたい。</p>
保護者	準備や地域の了解を得るのに必要な期間を考慮して、令和4年度に開校することを設定しているのか。
教育総務課長	教員の配置や施設の建設する期間を考慮すると、準備する期間として最短でも3年を要すると見込んでいる。よって、開校時期を早めるのは厳しい。
保護者	学校再編に関して、特別に窓口を設けることはしないか。
教育総務課長	市ホームページや広報紙などで情報を提供している。
保護者	市ホームページ上で掲載しているページまでいくのが手間になっている。この前も、パブリックコメントのページに辿り着くまでに時間がかかった。
教育総務課長	一番早いのが電話で問い合わせさせていただくことだ。
司会	教育委員会のホームページで、「学校再編」というタブをクリックすると、関連することが全て掲載されているので確認してほしい。
保護者	埼玉県内で義務教育学校設置の話が出ているのは、行田だけなのか。

学校教育部次長	埼玉県内で義務教育学校を設置しているのは、春日部市だけだ。9月に視察する予定で、皆さんが疑問に思っていることを質問し、そこで得た回答を皆さんにも情報提供していく。
保護者	行田も見沼中学校区の義務教育学校が設置できれば、他の地域も設置していこうと考えているのか。
教育総務課長	全市的に小中一貫教育を推進していこうと考えている。しかし、義務教育学校を全ての地域で設置することは物理的に難しい。
保護者	学校再編は、単純に人口が減っているからなのか。
教育総務課長	各学校の規模が小さくなっており、現在は中央小と星宮小、太田東小と太田西小も再編成しなければならない状況だ。他の地域も児童数が減ったら、再編成をしなければいけない。中学校も現在8校あるが、4校あればよいとシミュレーションしている。その際に、小中一貫校を新たに建設した方がよいのかなどを考えている。 再編を進めることと義務教育学校を設置することに、賛同をいただける方は拍手を願いたい。
保護者	(拍手多数)
教育総務課長	小中一貫教育は始まったばかりで、手探りな部分もある。子供たちにある程度の規模の中で、学んでもらいたいと思っている。複式学級だと先生の配置も十分にできない。
保護者	先生は、少人数の方が少ない負担で済むのではないか。
教育総務課長	少人数の学校だと、それだけ教員も少ないということだ。大きい学校も小さい学校もやるべきことは同じであるため、小規模の学校の教員は交代で休めないなど負担が大きくなっている。教員は子供たちに教えるだけではなく、他にも業務を抱えており、教員の数が少ないといくつも掛け持ちをしなければいけない。そういった状況が続くと、子供たちに向き合う時間がなくなってしまふ。教育委員会としては、教員には子供たちに教えることをメインに考えており、それがおろそかになる学校の規模はよくないと思う。

保護者	4校が一緒になった場合、現在ある1校当たりの教員の数より増えるのか。
学校教育部次長	須加小や北河原小の先生は、適正規模の学校の先生より多忙である。再編成することで、それを解消できるような教員の人数になる。
教育総務課長	先生と子どもの関係だけ見ると、少人数の方が手厚く見てもらえるのでよいと感じるのは理解している。
保護者	須加小はすごく暖かい学校である。成長段階で子供たちが中学校に進学する際に、大人数で切磋琢磨することは親として受け入れられるが、小学校低学年のうちから劇的に教育環境が変わることに、保護者は心配しているのではないかと思う。
教育総務課長	市内では、35人学級で学んでいる子どももいる。ある程度の人数で学ぶと、子供たちからはいろんな意見が出て、自分とは違った意見を受け入れる。そうすることで子供たちは成長している。教育委員会としては、そういった教育環境に近づけていく責任がある。子どもが不安にならないように、丁寧に再編について説明をしていく。
保護者	個人的には、子供たちには大勢の仲間の中で学んでほしいと思っている。少人数だと人間関係が固定化してしまうので、よくないと思う。
5 閉会	